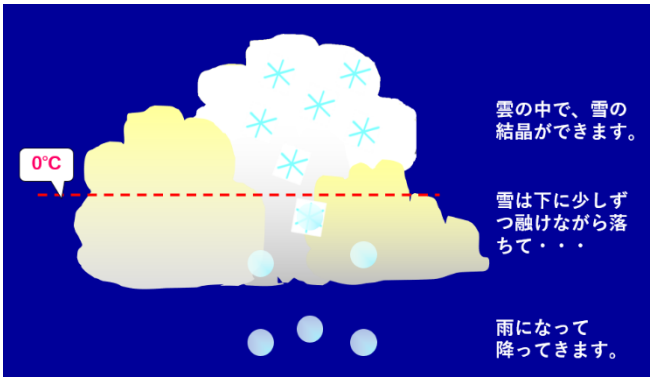
お天気解説 アキラのズバッと

湿った雪と乾いた雪

令和８年２月 13 日

江戸川区気象防災アドバイザー　藤井　聡



２月は東京でもよく雪が降ることがありますね。雲から落ちてきた雪片は、気温が０℃より高い位置から少しずつ融けながら落ちて、雨粒に変わります。少しずつ融けるので、地上が 2℃ぐらいでも、水分の多い「湿った雪」として降ってくることがあります。ところが、地上でも氷点下になると、雪は融けずに落ちてくるので、「乾いた雪」となって降ります。このように雪には水分の多少があり、これによって降雪量も変わってきます。水分の多い雪はなかなか積もりませんが、少ない雪ほど積もりやすくなります。天気予報では、降水量（㎜）の数値に対する降雪量(cm）の数値の割合を「雪水比」として表しています。雪は１.０㎜の降水量に対し 1cm の降雪量になるのが標準で、雪水比は 1(cm)／1.0(㎜)＝1.0 になります。雪の多い地方では気温が氷点下になると雪水比は標準より大きく 1.5以上になることもあります。

2013年１月１４日、関東南部では雨が昼前から雪に変わり、気温は正午に都心で 0.8℃、江戸川臨海で 0.4℃に下がりました。12～13時に都心で降雪量 4cm、降水量8.0㎜だったので雪水比を計算すると 4／8.0＝0.5 になります。降水量 1.0㎜に対し降雪量が 0.5cm だったことになるので、標準よりも水分が多い「湿った雪」だったことが分かります。この日は成人式でした。その後も雪水比0.4～0.1 の雪が降り続き、滅多にない雪景色の成人式になりましたが、足元はビチャビチャぬかるんで、晴れ着にとっては悲惨な天気となってしまいました。

先日（８日）に降った雪は、都心の降水量4.5㎜に対し 5cm の降雪があったので、雪水比は 5(cm)／4.5(㎜)＝1.1 の「乾いた雪」でした。区内でも－1～－2℃の氷点下の気温の中、雪がふわふわ舞って融けずに落ち、結晶がきれいに観察できましたが、滑りやすかったですね。

2026年02月13日11時　気象庁　発表

日付		今日 13日(金)	明日 14日(土)	明後日 15日(日)
東京地方		曇後晴	晴後曇	晴
降水確率(%)		-/-/10/0	0/0/0/0	10
信頼度		-	-	-
東京 気温 (℃)	最高	12	14	18 (16～19)
	最低	-	2	3 (0～6)

東京地方の週間天気予報

（気象庁HPから抜粋）

週末は高気圧に覆われ、晴れて暖かくなりそうです。

クリックすると気象庁による新しい情報が見られます。